



やまを守るために間伐した竹を砕きチップとし、そのチップが醗酵する際に発した熱を構造でもあるアルミの大きな壁面が大切に空間に伝える。その空間を皮膚のような蚊帳が柔らかく包み込み、あたたかな環境を創り出す。それはあたたかも自然の中に作られた心地よい巢のような空間であり、そのあたたかさに人々が集う空間となる。

やまを守る人々によって、切り出された竹材を暖かさに変え、それを人々が分かち合う場所を生み出したい。

自然が生み出すエネルギーとそれを活かす材料特性、さらには日本人の持つ生活の知恵が重なり合いつくられるウォームシェアスペース。

DIAGRAM [TAKE]

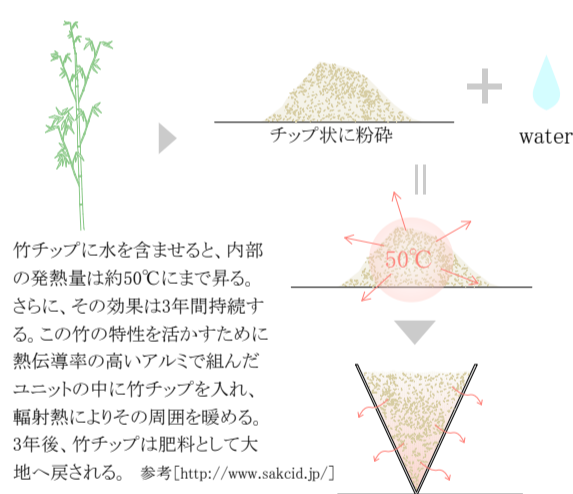
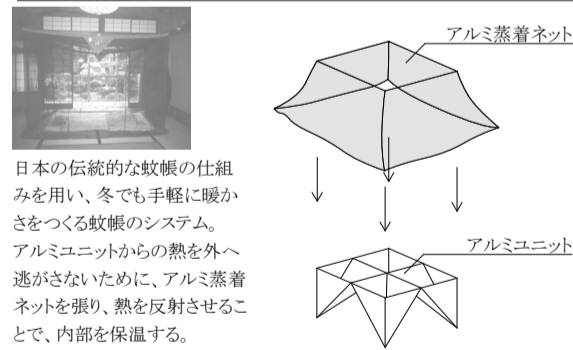


DIAGRAM [KAYA]



PATTERN

